

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店〔酒〕（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も増えているが、海外からの観光客は増えている。新型コロナウイルス感染症も重症化はしていないので、インフルエンザのような扱いになるとみている。
	◎	コンビニ（副店長）	・来月以降もクルーズ船寄港や長期休みにより、今月同様の来客数、販売数が期待できる。物価上昇に伴い取扱金額が増加しているものの、受入れ側としての賃金を含む人材確保、経費の増加などの課題もあり一概に手放しでは喜べない。
	◎	観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの7月の販売室数が前年比5%減少とマイナスなのに対し、7月末時点での10月の予約室数は前年比18%増加とプラスに転じている。
	○	コンビニ（経営者）	・行動制限がなくなりイベント等が始まるため来客数が増加する。
	○	家電量販店（営業担当）	・販売台数の改善傾向が続けば、全体的な値上げによる単価上昇効果で売上額は上昇する見込みである。
	○	観光型ホテル（代表取締役）	・先々の宿泊予約も堅調に入ってきている。ただし、まだ新型コロナウイルス感染症発生前の70%から75%と回復に時間が掛かっている。飲食宴会部門も同様である。
	○	旅行代理店（マネージャー）	・爆発的に伸びる要素はないが、問合せ件数は新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつある。
	○	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・国際線の復活でインバウンドの受注が大幅に増加している。ただし、人手不足がなかなか解消できず受入れに制限を掛けなくてはならない状態である。
	□	百貨店（経営担当）	・電気料金や生活必需品など物価の先行きが不透明であり、節約志向は今後も継続するものと予想される。
	□	スーパー（企画担当）	・7～8月は夏休みなどでトップシーズンとなり、入域観光客数が増加し県内経済が良くなるが、3か月先は入域観光客の増加も一旦落ち着き、商品値上げも続くと考えると客の消費マインドは今月と変わらないと見込まれる。
	□	スーパー（販売企画）	・客単価上昇が継続していることや、来客数が前年並みで続いている状況から、今後も景気は変わらないと考えられる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・今月は夏物セール時期ということで期待していたが、思うようには伸びていない。これまでのタイミングとは合わなくなっているようである。販売のやり方を変えないといけなかもしれない。景気はまだ様子見である。
	□	乗用車販売店（経理担当）	・商品の供給量が追いつかないなど不安要素はあるものの、具体的な動きにはつながっていない。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・新車の生産遅れが来年まで続く見通しである。
	□	その他専門店〔陶器〕（製造）	・7～8月は例年どおりならば忙しい月である。
	□	住宅販売会社（代表取締役）	・民間建築に関する契約受注額は減少傾向にあるが、その分を公共工事受注で補いたい。
	□	住宅販売会社（役員）	・所得の伸び以上に建築費が高く、住宅建設やアパート建設が極端に増える見込みはない。
▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類となって、少し良くなる店もあるようだが、全体的にはまだ悪くなるんじゃないかという話もある。早めに新型コロナウイルス感染症が収束しないと大変厳しい状況になるのではないかと。	
▲	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・観光客も増えて、リゾート地の飲食店は行列ができるほどと聞いているが、ビジネス街の飲食店は新型コロナウイルスの感染拡大の影響か、地元客の動きが悪い。	
×	－	－	－
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	－	－
	○	食料品製造業（役員）	・労働者不足や物価上昇などで、急激な景気の好調感はないとみているが、県内のトップシーズンを迎え景気の上向き感はいましばらく続くだろう。
	○	窯業土石業（取締役）	・生産、販売共に大きな変化はなく当面の間、現状維持を見込んでいるが、原材料の価格高騰に伴う価格転嫁はある程度できており、収益改善が見込める。
	○	会計事務所（所長）	・当面は観光における好影響が続くと期待している。
	□	建設業（経営者）	・見込みの高い客の相談件数が増えず、止まったままである。

	<input type="checkbox"/>	広告代理店（営業担当）	・県内企業の販売促進活動は、資材や人件費高騰の影響、さらには十分な価格転嫁が進まない状況もあり、営業収益の先行きが見通せないことから消極的である。
	▲	—	—
	×	—	—
	◎	—	—
雇用 関連 (沖縄)	○	人材派遣会社（経営者）	・派遣依頼に対しての人材不足は続いているものの、やや流動性が出てきている。今まで人材不足で派遣できなかったところと契約や派遣ができているため、これからの売上は少し上がると期待している。
	○	人材派遣会社（総務担当）	・夏休みになり、今後もっと人の動きが活発になり景気が良くなる。
	○	求人情報誌製作会社（営業）	・定期的な採用活動の周期であれば、秋口に向けて徐々に求人数は多くなると予想しているが、前年と比較してプラスとなるかは疑問が残る。
	<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・賃金は上がるものの、物価も高騰している。
	<input type="checkbox"/>	学校 [専門学校]（就職担当）	・2024年卒生の求人数は減少するが、徐々に2025年卒向けの求人が届き始めるため、状況としては変わらないとみられる。
	<input type="checkbox"/>	学校 [大学]（就職支援担当）	・円安、物価高が収まる気配はない。
	▲	—	—
	×	—	—